

# 寸言

株式会社エー・アンド・デイ  
取締役執行役員  
第2設計開発本部長  
古川 哲



## Discover Precisionで航空宇宙産業に貢献を

この度は、伝統のある日本航空宇宙工業会に入会させていただくことになり、大変光栄に感じております。

弊社、エー・アンド・デイの名前は、アナログ&デジタルに由来します。1977年の創業以来、アナログ・デジタル変換技術を根幹に「はかる」を事業領域として様々な分野の計測機器を提供してまいりました。幅広い産業の現場、医療現場、そして家庭で幅広くお使いいただいております。

創立40周年を迎えた昨年には、エー・アンド・デイが目指すべき姿として、Discover Precisionという使命を制定しました。Discoverは、現状にとどまることなく新たな技術・事業に向けて前進すること、Precisionは、より正しく、より精密な計測を追求し「本物」を極めることを意味します。時代や環境、技術の変化に伴い社会やお客様のニーズも変わってまいります。現状に満足することなく変化を先取りして未来を切り開き、常に高精度の技術・製品で新たなビジネスに挑戦を続けることを使命とし制定いたしました。

弊社にとっては新たな技術・事業領域である航空宇宙分野では、試験装置に対しての性能・信頼性の面で要求が厳しいですが、弊社の精密な計測技術、また高度な制御技術が活用できる領域と考えており、継続的な貢献ができると信じております。これまで、航空宇宙分野での経験は限られておりますが、過去には最近量産が始まった航空自衛隊のC-2輸送機が、次期輸送機C-Xとして開発段階にあった当時、防衛省殿が技術試験の一環として実施した全機疲労強度試験において、計測制御システムの構築をご支援させていただきました。このシステムは、

試験用輸送機の供試体に対し、油圧アクチュエータを制御することにより実際に飛行中に機体に掛かる荷重を模擬し、この荷重によって機体に発生した歪を数百チャンネル正確に同時計測し、機体の性能・信頼性の検証を行うものでした。

また、最近の取り組みとしては、現在JAXA殿が開発中のH3ロケットの推進装置地上燃焼試験においても弊社の計測システムを活用いただいております。この計測システムは、JAXA殿の種子島・角田の両宇宙センターと三菱重工業株式会社殿の田代試験場に設置され、ロケットの推進装置の振る舞いをリアルタイムに監視し試験を安全に実行し、精度の高い計測によりノイズの少ない試験データの提供によって推進装置の試作品評価・設計検証の効率的な実施や低コスト化にご協力させて頂いております。

弊社の計測制御技術は、HILS (Hardware In Loop Simulation) プラットホームとして製品化し、現在は主として自動車産業に対してMBD (Model Based Development) 手法による開発・設計・検証を支えるツールとして提供させて頂いております。弊社ツールの最大の特長は、開発・設計の段階や対象システムの特性に依りて、大規模、精密なモデルをリアルタイムに処理可能なシステム構築ができることにあります。昨今、航空機や搭載システムの開発においても、開発の効率化や設計評価の高精度化が増々要求されるようになっておりますが、今後の関連事業に対して、弊社が特に試験計測や設計評価の場でこのような形での貢献ができれば幸いと思っております。

今後ともご指導ご鞭撻のほど、宜しく願い申し上げます。